

防災教育チャレンジプラン最終報告会

持続可能な防災教育in Nepal



国際防災教育支援団体SIDE
Support for International Disaster Education



兼田奈津子
河田のどか
中野元太



ネパールでの活動概要

活動期間: 2007年8月18日～8月31日

実施場所: ネパールのセカンダリースクール2校

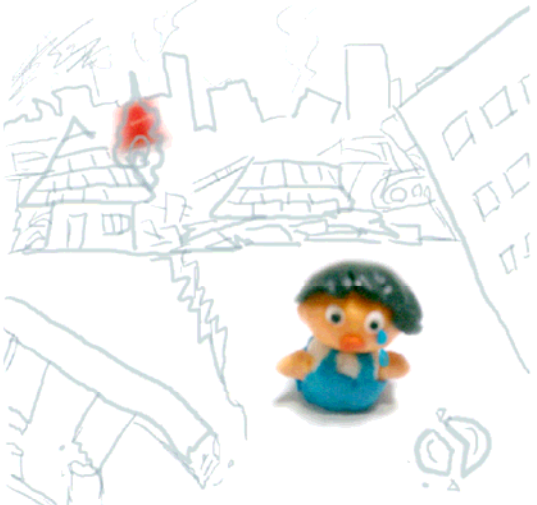
現地NGO主催スピーチコンテストでの心の
ケアに関する教育

使用教材: 防災教育絵本「BOUSAI」(80冊)

震動台実験(3台)

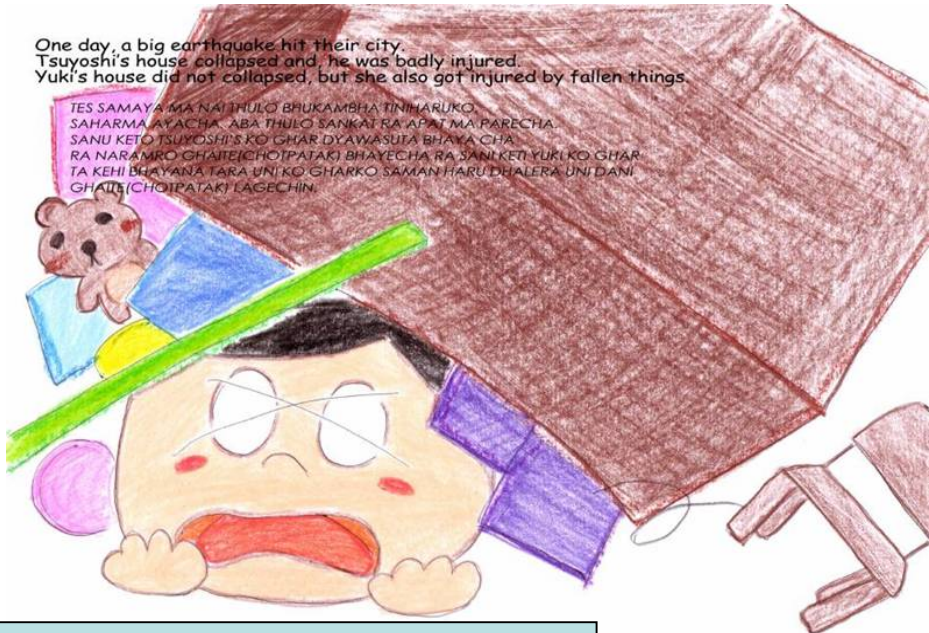
メカニズム絵本

A girl, named Kurumi, was in Kobe when the great earthquake occurred. Her family was safe, but her house was heavily damaged. She lost most of her favorite books and toys. Since her school got severely damaged as well, she could not go to school for a while.



KURUMI LE TES GHATANA KO USUKO GHARBAR RA STATIK APHU PANI LAMO SAMAYA

One day, a big earthquake hit their city. Tsuyoshi's house collapsed and he was badly injured. Yuki's house did not collapse, but she also got injured by fallen things.



TES SAMAYA MA NA THULO BHUKHAMBHA TINI HARUKO SAHARMA AYACHA. ABA THULO SANKAT RA APAT MA PARECHA. SANU KETO TSUYOSHI'S KO GHAR DYAWASUTA BHAYA CHA RA NARAMKO GHANTECHO IPATAKO BHAYECHA RA SANI KETI YUKI KO GHAR TA KEHI BHAYANA TARA UNI KO GHARKO SAMAN HARU DHALERA UNI DAMI GHATS(CHOIPATAKI) LAGECHIN.

防災教育絵本「BOUSAI」

If the earthquake happens: We cannot use the utility lines like waterworks, electricity, and gas

BHUKHAM BA AYOQ BHANEY WA KHANDAMA. GAS, PANIRA BUJULI KO SUBIDABATA BANCHIT.



Your house could collapse. GHAR DAWASUTA.



Furniture might have fallen down FURNITURE SABAI NASUTA.



You may feel stressed! TIMI KALIT RA KEHI SOUCHANA NASAKUNE BHUKHAMBHA KO KARAN.



Some were scared and even a little sound or noise reminded them of the earthquake. Some were terrified to be alone. A villager Miti was worried about friends.



... and could not sleep well.

BHAYAVIT BHUKHAMBHA KO KARAN. SAPANAMA PANI DHARAKDO. RA SUTANA PANI SAKENA KHOHITA SANO HALULAHA-RUSOUNDA PANI BHAYA VIT BAYACHAN RA PHERI BHUKHAMBHA AYAKO MAHASUS GARECHAN. EKLO BASUA PANI DARHAYA CHAN. GAULE MITI CHAHI EK DAM SATHI HARU KO CHINTA MA PARECHAN.



ネパールでの活動の様子



震動台実験



メカニズム絵本



現地の人々へ





ネパールでの経験を日本へ還元

実施校

和歌山県田辺市立新庄中学校 全校生徒

神戸大学発達科学部附属明石小学校 全校生徒

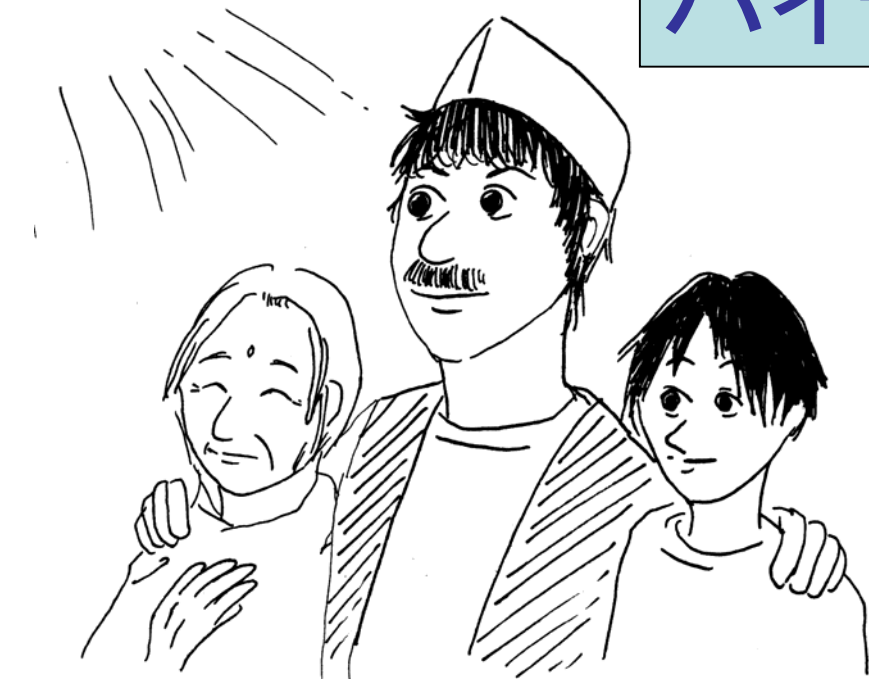
実施内容

- ・阪神・淡路大震災の体験
- ・ネパールでの活動を生徒に伝える
- ・ネパールで語り継がれている震災の物語

「バイチャ物語」の紹介



バイチャ物語



防災教育の様子



神戸新聞

夕刊

発行所 神戸新聞社
 神戸市中央区東川崎町1-5-7
 郵便番号 650-8571
 ©神戸新聞社 2008年
 電話 (078) 362局
 読者センター 7056
 社会部 7040 写真部 7047
 経済部 7094 販売局 7066
 総務部 7095 広告局 7081
 文化部 7044 地域局 7086
 文芸部 7045 地産動局
 生活部 7046 地域局
 調査部 7048 メディア局 7213

代
 物
 民芸御食事処 豪華連れから200名大宴会
 年中無休 (株) 緑彩
 とどけいや
 078(321)0555

「子ども目線」で伝える震災

全国唯一の環境防災科がある兵庫県立舞子高校(神戸市垂水区)の卒業生や生徒が、小学生や修学旅行生らに阪神・淡路大震災の経験を語り「震災を身近に感じられる」と好評を得ている。これまでは「語り部の大半が大人だったため、同校は子ども目線で見た震災を語り継ぐことが子どもを守る防災につながる」と期待する。人と防災未来センター(同市中央区)も「若者語り部」に注目し、同校との連携を計画している。(10、11面に関連記事)

県立舞子高卒業生ら

「怪獣がマンションを揺さぶっているみたいで、家の中がめちゃめちゃになりました。お母さんがかぶさって守ってくれました。水も電気もなく、毎晩水をくみに行き、ずっと不安でした」

同校環境防災科の卒業生で神戸学院大三年の岸本くるみさん(三)が十五日、神戸大発達科学部付属明石小学校(明石市)で、七歳時の被災体験を語った。難しい言葉は使わず、当時感じたままに体験を表現。学校が避難所になったこと、救援物資の鉛筆が届いてうれしかったことも話した。

同校OBで、年五回ほど小、中学校を訪れる立命館大二年の中野元太さん(三)もこの日「震災で

記憶継ぐ

は小さな揺れが続いたので、今でも小さな揺れが怖い」と語った。

同小四年の岸本泰裕君(三)は「これからはベクトルをそばに置いて響く」と誓い、別の児童は「次に大地震があったら、自分ができることで困った人を助けたいと思った」と感想を述べた。

同校環境防災科の卒業

人と防災未来センター連携へ 感じたまま表現



子どもたちに被災体験を語る舞子高校OBの中野元太さん。児童約480人が聞きたった一冊石山山下町、神戸大発達科学部付属明石小(撮影・大森 武)

生や生徒が、本格的に語感を持ったのがきっかけ。部活動を始めたのは約二年前。同科の諏訪浩二(二)が伝わりやすいという。教諭(三)が「被災した若者う心配えも得て、各地に者が当時のことをもって出向いている。話さない、教訓として伝える震災事実が大いなる人と防災未来センターの経験に偏る」と危機ターでは三十七人の話

り部が活動しているが、平均年齢は六十九歳。舞子高との連携で「活動の幅が広がる」とし、卒業生や生徒には週末や夏休みに登場してもらおう方向で検討中だ。同センターは「彼らが国内外の人々と交流する機会にもなれば」と話し

(中島摩子)



今後の活動について

ネパールでの活動を継続

- ・防災教育絵本「BOUSAI」の第2版制作
- ・指導書を作成

現地の先生へのトレーニングを通して、
持続可能な防災教育を目指す

日本国内では

- ・私たちの阪神・淡路大震災の体験を伝える
- ・ネパールでの活動を日本に還元する
- ・バイチャ物語を日本国内にも広げていく

今回のネパール訪問・国内での防災教育では防災教育チャレンジプランの多大なご支援を頂き、実施することができました。また様々なアドバイスを頂き、よりよい活動を行うことができました。本当にありがとうございます。

ご清聴ありがとうございました。

これからもよろしくお願いいたします。

国際防災教育支援団体SIDE
Support for International Disaster Education

